



サキュバス調教シミュレーション

# Succubus Break

サキュバスブレイク

SOFT

私を調教…？ 人間って面白いことを考えるのね…  
いいわよ…遊んであげる……♡



あなたの分身である調教師。  
愛らしい美少女ですが、その身体  
にはある秘密が…

あなたは夢魔を調教する調教師となり、魅力的なサキュバスたちを調教し、従順な性奴隷に仕立てあげます。

「愛撫」「フェラチオ」などのコマンドを駆使して彼女たちを手なづけ、奉仕の喜びを教えてくださいましょう。

夢魔との愛に目覚めるもよし、凄腕の調教師として大陸に名を轟かせるもよし。  
すべてはあなた次第です！



調教を成功させるにはセックスコマンドが一番！  
サキュバスさんも御満悦の様子…♡

「サキュバス」「インプ」など36種類の夢魔が登場し、それぞれ調教のしやすさが異なります。

調教のすすんだ夢魔は助手として調教に参加させることができ、「3P」などの上級コマンドが使用できるようになります。

一部の夢魔の攻略には助手の存在が欠かせません。助手の使い方がゲーム攻略のカギになるでしょう。

「愛撫」「フェラチオ」をはじめ、調教コマンドは全部で69種類。

夢魔の反応を見ながら、適切なコマンドを選択していきましょう。

夢魔の興奮が十分に高まったら、正常位などのセックスコマンドが使用可能になります。

セックスコマンド使用中は屈服ゲージの増加が加速します。

さらに夢魔の絶頂と同時に膣内に射精してやれば、好感度にボーナスが発生します。



夢魔たちにはそれぞれ相性があり、相性のよい夢魔同士だと勝手に調教をすすめてしまいます。

しかし、夢魔同士が仲良くなりすぎると…？

ふふっ…。 あの小さかったお嬢ちゃんがね…  
いま、こうして私を腕の中に抱いているなんて…♡

『サキュバスブレイク』では、夢魔の他にも  
たくさんのキャラクターが登場します。  
彼女たちの役割は様々です。主人公のサポート  
をしてくれたり、様々な援助をしてくれたり、  
調教の手助けをしてくれたり…。  
彼女たちの協力を受けつつ、夢魔の調教を成  
功させましょう！



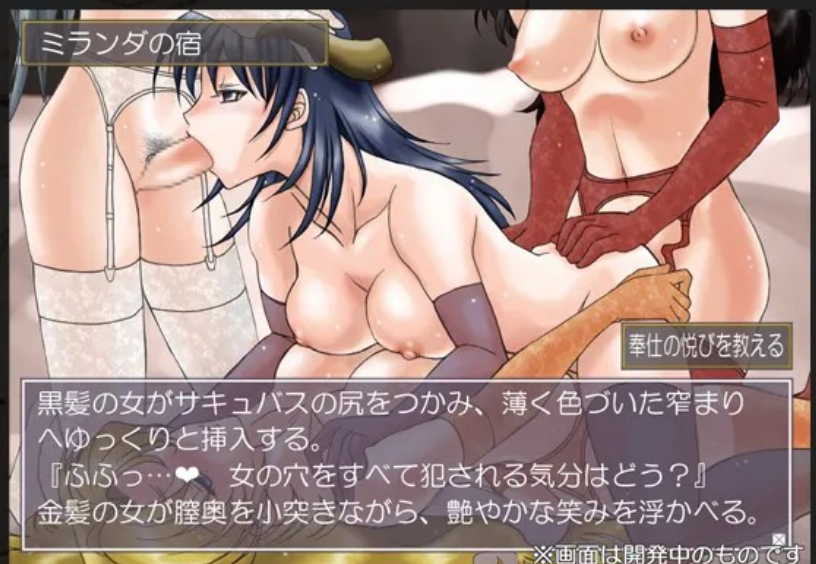
おたすけメイドのマリーカさん。  
もちろん、彼女も「調教」できます。  
実は彼女のシナリオが一番エロいとい  
う噂…♡



調教に効果のある施設の建設には皇帝陛下の許可が必要です。  
そして許可を得るには、陛下の機嫌を取らねばなりません。  
調教した夢魔を皇帝に一晚預け、「奉仕」させるのが効果的です。  
もちろん、主人公自身が陛下に「奉仕」しても構いません。  
あなたとともに濃密な一夜を過ごせば、陛下の機嫌もすこぶる良くなるはず。  
——もっとも、陛下を満足させるには、それなりの「精力」が必要ですが。

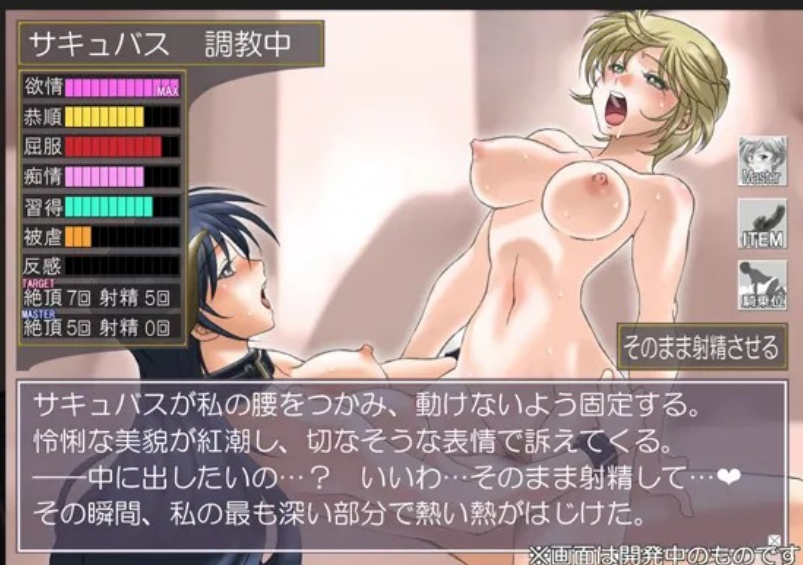
一国の君主には見えない帝陛下。フッ飛んだ言動が目立つお姉さまだが、  
実はお年頃の娘がいる…。

調教には育成の面もあります。  
繰り返し調教を行うことによって夢魔  
はより美しく、より淫らに、より快樂  
に目覚めてゆきます。  
性の技巧を追求し、淫靡な娼婦に育て  
あげるもよし、純愛を貫き愛を勝ち取るもよし。  
すべては調教師であるあなた次第なので  
す！



ゲーム中盤になると利用できる娼館、「ミランダの宿」  
性戯のエキスパートである娼婦たちにかかれればサキュバスさんも…♡

御主人さまにはいつも可愛がってもらってるから…。  
今夜は、アタシが御主人さまを可愛がってあげる♡



SQFのFはFutanariのF！  
 もちろん、サキュバスブレイクも例外では  
 ありません♡  
 ゲームをすすめると入手できる「禁断の  
 知識」を研究すれば、夢魔にオオンチン  
 を生やさせることができるようになります。  
 ふたなり夢魔と女主人が互いに犯し合い、  
 白濁にまみれる光景はSQFの醍醐味！  
 いいですね？  
 SQFのFはFutanariのFです！

ふたなりの秘術で夢魔にオオンチンを生やさせ、女主人を犯させます。  
 女では味わえない快樂に、サキュバスさんも思わず…♡

サキュバスブレイクには基本的に時間  
 制限はありません。いつでも、どこで  
 も、好きな時に「エンディング」ボタ  
 ンを押せば（極端な話、ゲーム開始直  
 後でも！）、そこでエンディング判定  
 が下され、エンディングを迎えること  
 が出来るのです。  
 重要なのはエンディングを迎えること  
 ではなく、夢魔たちと過ごす、ごく平  
 凡な愛と欲望の日々（ぶっちゃけると  
 Hシーン）なのです。

必須システム環境

OS：Windows XP以上

CPU：Pentium4プロセッサ1.5GHz以上

メモリ：512MB以上

HDD空き容量：11GB以上

内容

ゲームディスク：2枚

サウンドトラックCD：1枚

説明書：1冊

設定資料集：1部

ワールドマップ&夢魔図鑑：1枚



数あるエンディングの中の一つ、女主人孕ませエンド。  
 調教していたはずがいつのまにか調教され…。  
 夢魔の魅力は、それほど危険で甘美なものなのだ。

サキュバス 調教中



リリスに遊ばせる

「あれ〜？ なんだかエッチな匂いがするよ…？」  
インプの無邪気な声がサキュバスの耳朶をうつ。  
愛らしい指が夢魔の秘裂へ伸び、蜜をゆっくりかき混ぜる。  
「ふいふ…っ もおすっかりグチョグチョだね…♡」

※画面は開発中のものです



皇宮 皇帝の私室

皇帝に謁見する

「あら、いらっしゃい♥  
資金が欲しいの？ それとも施設建設？  
それとも…私とセックス？」  
——相変わらず陛下は絶好調のようだ。

※画面は開発中のものです



# サキュバス 調教中

欲情	■■■■■
恭順	■■
屈服	■■■
痴情	■■■■■
習得	■■■■■
被虐	■
反感	■■■■■
TARGET	絶頂 4回 射精 0回
MASTER	絶頂 1回 射精 1回

Master

ITEM

正常位

膣内に射精する

サキュバスがビクリと身体を震わせ、股間から飛沫を吹き散らす。  
私はサキュバスの手を握りながら強く腰を押しつけ、彼女の最奥で欲望のかたまりをはなった。

※画面は開発中のものです

# サキュバス 調教中

欲情	■■■■■
恭順	■■■■■
屈服	■■■■■
痴情	■■■■■
習得	■■■■■
被虐	■■
反感	■■■■■
TARGET	絶頂 5回 射精 0回
MASTER	絶頂 2回 射精 2回

Master

ITEM

正常位

膣内に射精する

「ひィ…ッ！？ ふぁッ♡ はぁあんッ♡」  
サキュバスが美貌を恍惚とさせながら歓喜の声をはなつ。  
私たちの繋がった部分から愛液と精液の混じり合った汁が  
こぼれ、クチュリと淫猥な音をたてた…。


※画面は開発中のものです











ミランダの宿

奉仕の悦びを教える

黒髪の女がサキュバスの尻をつかみ、薄く色づいた窄まりへゆっくりと挿入する。

『ふふっ…♥ 女の穴をすべて犯される気分はどう？』  
金髪の女が膣奥を小突きながら、艶やかな笑みを浮かべる。

※画面は開発中のものです



# サキュバス 調教中

欲情  MAX

恭順 

屈服 

痴情 

習得 

被虐 

反感 

TARGET  
絶頂 7回 射精 5回

MASTER  
絶頂 5回 射精 0回



そのまま射精させる

サキュバスが私の腰をつかみ、動けないよう固定する。伶俐な美貌が紅潮し、切なそうな表情で訴えてくる。——中に出したいの…？ いいわ…そのまま射精して…♡ その瞬間、私の最も深い部分で熱い熱がはじけた。

※画面は開発中のものです

# サキュバス 調教中

欲情  MAX

恭順 

屈服  MAX

痴情 

習得 

被虐 

反感 

TARGET  
絶頂 7回 射精 5回

MASTER  
絶頂 5回 射精 0回



そのまま射精させる

大量の白濁が膣内に満ち、わななく子宮口へ夢魔の精が浴びせられる。  
私は股間から透明な飛沫を飛ばしながら、絶頂と同時に射精されるといふ、牝にとって最高の幸福に酔いしれた…。

※画面は開発中のものです





# サキュバス 調教中

欲情  MAX

恭順 

屈服 

痴情 

習得 

被虐 

反感 

TARGET  
絶頂 6回 射精 4回

MASTER  
絶頂 4回 射精 3回



そのまま射精させる

サキュバスが私の奥を突きあげながら股間に手を伸ばし、先走りの汁を漏らすペニスを掴む。腰の動きにあわせて敏感な部分をこすられ、私は股間に熱が集まってゆくのが感じた。

※画面は開発中のものです

# サキュバス 調教中

欲情  MAX

恭順 

屈服  MAX

痴情 

習得 

被虐 

反感 

TARGET  
絶頂 7回 射精 5回

MASTER  
絶頂 5回 射精 4回



そのまま射精させる

サキュバスが私の腰をつかみ、勢いよく精をはなつ。熱い白濁が膣内に満ち、夢魔の精が子宮口に浴びせられる。私は大量の精を撒き散らしながら膣を締め、絶頂しながら射精されるといふ、牝にとって最高の幸福に酔いしれた…。

※画面は開発中のものです







サキュバスが私の乳房を揉みながら、突き入れたものを膣奥にこすりつけてくる。その先端が大きく膨らみ、生温かい汁が漏れ出る感覚。

「アハ…ッ♥ お腹の中までそそいであげる…♥」

私は歓喜に身震いしながら膣を強く締め、彼女の射精が気持ちよいものになるよう努めた。



熱いものがはじけた瞬間、私も絶頂を迎えていた。  
ほとばしる精液が歓喜する子宮にあびせられ、その奥で育つ新しい生命に、新鮮な栄養を送り届ける。  
「ふふっ…きっと元気な赤ちゃんが産まれるわよオ…♡」  
サキュバスは嬉しそうに私のミルクを搾りながら、射精のつづくペニスを膣奥にこすりつけてきた…。







膝の上で私を抱きかかえたままサキュバスが私の手を取り、先走りの汁を漏らすペニスを握らせる。

「ふいっ…♡ オチンチンが寂しそうにしてるわ…だから、慰めてあげないと…♡」

私は急速に高まる射精感に翻弄されながら、絶頂に向かってのぼり続けた。



私が絶頂を迎えた瞬間、サキュバスも達したようだ。  
ほとばしる精液が歓喜する子宮にあびせられ、その奥で育つ新しい生命に、新鮮な栄養を送り届ける。  
「ふいっ…きっと元気な赤ちゃんが産まれるわよォ…♡」  
私はサキュバスにミルクを搾られながら、続けざまに何度も精をはなった…。



私が絶頂を迎えた瞬間、サキュバスも達したようだ。  
ほとばしる精液が歓喜する子宮にあびせられ、その奥で育つ新しい生命に、新鮮な栄養を送り届ける。  
「ふいっ…きっと元気な赤ちゃんが産まれるわよォ…♡」  
私はサキュバスにミルクを搾られながら、続けざまに何度も精をはなった…。











# サキュバス調教日誌の

Something setting data of Succubus Breaking diary

# 設定資料的な何か

# サキュバス

Succubus breaking diary



- ・フル装備のサキュバスさんです。実は、着衣状態のサキュバスさんが描かれるのは、これが初めてだったりします。
- ・夢魔に個人名というものは元来存在しないそうなのですが、お嬢さまが「ブランカ」と名づけられました。本人もわりと気に入っておられるようで、お嬢さまも安堵なされております。
- ・パンツ丸見えですがサキュバスなので恥ずかしくないそうです。
- ・羞恥心というものがあまり無いのでしょうか…。

・パンツはTバックを好んで穿いておられます。お尻の形が最も綺麗に見えるので、気に入ってるそうです。

- ・男性経験は軽く三桁を越えます。女性経験も豊富なようです。
- ・つまり両刀ですね。お嬢さまが調教するに相應しい、素晴らしいサキュバスであると思います。

Bianca  
the Succubus

# Blanca the Succubus

Succubus breaking diary



- ・調教される時は当然ハダカです。羽根が無くなってしまいましたが、「あんなものは飾りです。偉い人には（ry）」とのこと。
- ・ブランカさま本人の弁によると、羽根やツノといった小道具は夢魔の人外感を演出するために作り出された幻影で、本来の姿は私たち人間とあまり変わらないそうです。
- ・夢魔の能力を封じられているので羽根が出せなくなっているのですが、それならツノも同じように無くなるはずでは…というのは、野暮というものです。



- ・後ろからペニスを挿入して腰を打ち付けたらとても良い音がします。締め具合や褰の絡みつきも絶品とのこと。
- ・これまでに最も多くの男性を相手したのは、どこかの駐屯地に潜り込んだのが見つかり、五十人くらいの兵士に捕まって輪姦された時だそうです。

- ・危うく気を失いかけたそうですが、逆に騎乗位で全員を搾り倒したとのこと。
- ・そんなブランカさまに挑まれ、奴隷として調教することに成功されたお嬢さまは、やはり最高ですね。

Blanca  
the Succubus

# 御主人さま

Succubus breaking diary



- ・この愛らしい少女が私のご主人さまです。お名前をバーデル伯フレイヤ・フォン・レンツと申され、親しい方にはフレイと呼ばせておられます。
- ・私ですか？ 私は心よりの敬慕をこめ「お嬢さま」とお呼びさせていただきますいております。
- ・若年ながら名門貴族の御当主であらせられます。
- ・サキュバスを調教するなどという酔狂な趣味をお持ちの方ですが、聡明で慈愛に満ち、適度に我がままな可愛いお嬢さまです。



- ・お嬢さまの最大の身体的特徴である固くて太くて立派なオチンチンですが、普段は親指くらいの大きさなので容易に下着の中に収まります。
- ・根元の少し膨らんだ部分が男性器の「玉」に当たる部分で、ここで精液が作られます。
- ・時々急に下着の中で元気になりお嬢さまを悶絶させてしまう暴れん坊ですが、私に夜ごと女の悦びを与えて下さる素晴らしいオチンチンです。
- ・一晩に三回は余裕です。

Freya  
The Master

# メイドさん

Succubus breaking diary



- ・紹介が遅れました。今回案内役を仰せつかりました、メイドのマリーカです。

- ・御屋敷内の諸事全般に御領地の差配、ブランカさまの調教をサポートしてベッドの中では愛人…とマルチな仕事をこなすスーパーメイドです。

- ・ちなみに破瓜は14歳の時で、相手はもちろんお嬢さまです。

- ・お嬢さまのアレが私の中に入り、体奥へ熱いものが放たれた時の幸福感…

- ・思い出ただけで3回はオナニーできます。

- ・好きな体位は正常位ですが、お嬢さまが望まれるのであればどのような体位であろうとそれが私のフェイバリット体位です。野外立位？

余裕ですがなにか？

- ・髪の毛はふだん頭の両側で縛っていることが多いのですが、夜の御奉仕の時には左のように結びあげることもあります。

- ・「綺麗に整えられていたのが時間が経つにつれて乱れていくのがエロくて良い」とお嬢さまも御満悦の様子。計算通り。

- ・下着はすぐに行為におよべるよう、脱がせやすいものを身につけておくのがメイドのたしなみというものです。



Malika  
maid-servant

サキユバス

調教日誌

①



# The First Night



私はサキュバス。名前は無い。気が付くと、豪華な調度品に彩られた寝室に裸で寝ていた。どうしてこんな所にいるのか、どうやってここに連れてこられたのか分からない。飛翔や霊体化の能力も封じられているようだった。首にはめられた首輪から何やら強い魔力を感じるのだが、もしかしてこれが原因だろうか？



脱出の方法を考えていると、ほどなく一人の少女が現れた。どうやらこの娘が私を捕らえ、監禁した張本人らしい。利発そうな女の子だが、生意気にも私を調教するなど言っている。身の程知らずもいいところだが、好みのタイプだったので遊んでやることにする(私は女の子もイけるクチなのだ)。

# The First Night



「まずはキスからね」

少女は私に近づくと、おもむろに唇を重ねてきた。調教というからどんなハードな行為をするかと期待していたが、案外普通…

…え？ うそ…この娘…すごく…じょうず…♥

唇を合わせているだけで胸に幸福感が満ち、腰の奥が熱くなる。

キスだけでこんなに気持ちよくなってしまうなんて…。



ベッドに押し倒され、本格的な調教がはじまった。

丁寧な愛撫に興奮が高まり、身体の奥に悦びが満ちてゆく。

乳房を揉まれ、舌先で転がすように乳首をしゃぶられると私の理性は完全に飛んでしまい、みずから股間を少女の腰にこすりつけ、こも可愛がってほしいと懇願するようになっていた。

…なんだかカタいモノがアソコにあたっているけど…これは一体…？

# The First Night



なんと、少女の股間には成人男性のそれよりも立派なペニスが屹立していた。  
なんでも、彼女の一族には夢魔の血が混じっているらしく、時々彼女のような身体の娘が産まれるそうだ。  
…だめ…こんな美味しそうなオ○ンチンを見せられたら…  
——私はかぐわしい芳香をはなつそれを手に取ると愛しそうに口づけ、音をたてて舐めはじめた。



少女が私の頭を撫で、フェラチオを褒めてくれる。  
嬉しくなった私は少女に逆さまに覆いかぶさるとシックスナインの姿勢を取り、互いの性器を舐めあつた。  
そりかえったものへ奉仕しながら恥ずかしいくらい濡れている性器を可愛がられ、私はすすり泣きのような声を漏らした。

# T + Night



「そろそろ…いいわね？」  
少女の問いかけに、私は夢中で頷いた。  
ベッドに這わされ、迎え入れる姿勢を取らされる。  
私…もうすぐこの子のものにされちゃうんだ…  
期待にわななく膣口に少女の体温を感じた次の瞬間、私は少女に犯された。



少女は私の膣内にペニスを埋め込んだままじっと動かず、私の中の感触を愉んでいるようだった。

「動くわよ…？」

少女の腰がゆっくりと前後に揺れ始め、私をのけぞらせる。  
私の感じる場所を探る動き…私を悦ばせるための動きだ。  
ほどなく私の弱い部分はすべて少女の知る所となり、私は、少女の律動に  
歓喜の声をあげて応えるほかなかった。

# The First Night



「お願い…出して！ このままなか腔内へだ射精してっ♥」  
少女の腰の上で尻を振りたくり、腔内への射精を懇願する。  
彼女は私が完全に堕ちたと見ると腰を掴んで抱き寄せ、耳元で囁いた。  
「素直ないい子…御褒美に、あなたの大好きなものをあげる」  
少女が小さく呻く。その瞬間、腔の中のペニスから勢いよく熱がはじけ、  
腔奥に精液のかたまりが叩きつけられた。  
「あ…あひいいいっ♥」  
かつて経験したことのないほどの快感が身体中に満ちあふれ、私は歓喜の  
声をはなちながら潮を吹いて絶頂に達した。

# The First Night



こうして、私は少女の奴隷になった。  
以後、私は調教奴隷として、いつでも、どこでも、誰にでも、求められればこの身体を提供し、調教に応えなければならない。  
これだけ書くと酷い扱いを受けているように感じられるかもしれないが、屋敷内での行動の自由は認められているし、衣食住も保証されている。なにより、私の主人となった少女——フレイの調教は、私を満足させるに足る快樂を与えてくれるだろう。奴隷というのも悪くない身分だ。

調教の終わりに、少女は私に名前をつけてくれた。  
ブランカ。  
古い言葉で”白”という意味だそうだ。  
どういう意図をもってこんな名前にしたのか気になるが、それは追々ベッドの上で教えてもらえるだろう。  
これから御主人さまにどのような調教をしてもらえるのか…それを想像すると子宮の奥が疼いて仕方がない。

---

調教が終了しました。

サキユバヌ

調教日誌

②



# The Second Night



私はブランカ。調教奴隷のサキュバスだ。  
この屋敷で暮すようになって、はや半月。  
屋敷内での行動の自由は保証されているが、  
他に何もすることが無いので暇を持てあまして  
いる。

しょうがないので屋敷の中をウロウロしているの  
だが、足が自然と御主人さまの部屋に向かって  
しまう。

道中、メイドに見つかり、白い目で睨まれた。  
どうやら、「裸で屋敷内をうろつくな」ということ  
らしい。

「あら、ブランカ。どうしたの？」  
書類仕事をしていた少女が私に  
気づき、にこりと微笑む。

この少女が私の御主人さま——  
フレイだ。  
見た目はただの小娘だが、  
サキュバスの私を閨淫の術で  
屈服させ、奴隷として調教する  
ことに成功した凄腕の調教師だ。

情けないことに彼女の姿を  
見たとたん胸の鼓動がはや  
まり、腰の奥が潤んできて  
しまう。

私の表情の変化を見た  
少女が艶然と笑みを  
浮かべ、「したいの？」  
と問うてくる。



# The Second Night



私は嬉々としてフレイの膝上にまたがり、細い身体を抱きしめた。互いの体温を感じながら唇を重ね、舌をからめあう。軽く愛撫されているだけなのに、ただ口づけをかわしているだけなのに胸に幸福感が満ち、身体の芯から熱くなってゆく。

「…ブランカ…私が欲しい……？」

夢中で頷くと、フレイは私を隣のベッドルームへ連れ込み、素早く衣服を脱ぎ始めた。

# The Second Night

フレイが裸になり、瑞々しい肌があらわになる。  
その股間には、少女の身体には本来付いているはずのない器官——野太く猛々しいペニスが屹立していた。  
これが私の御主人さま、フレイ。  
彼女が、女性では身につけることのできない調教の技術を会得できたのは、このペニスのおかげだという。  
(夢魔を調教するには、夢魔の腔内に魔力をこめた精液をはなたなければならないのだ)

「じゃあブランカ、調教をはじめましょう。  
まずは貴女をこれから可愛がってくれるオチンチンに挨拶するのよ」

私は、彼女の足元にひざまずくと固く勃起した器官を手に取り、透明な汁の滲む先端の小穴へ口づけた。  
先走りの汁を吸いながら脈打つ幹に舌を這わせ、喉奥まで唾え口腔全体をつかってしゃぶる。

「いい表情よ…ブランカ、私のオチンチン、好き？」  
私は恍惚となりながら奉仕をつづけ、何度も頷いた。

## The Second Night



私のフェラチオに満足したのか、フレイは奉仕を中断させると私をベッドに押し倒し、大きく脚を開かせた。  
私は胸を高鳴らせながら腰をせりあげ、彼女にすべてをさらけだした。  
可憐な唇が濡れそぼる性器に口づけ、私の唇から恍惚の音が漏れる。

Succubus breaking diary

# The Second Night

私だけ気持ちよくしてもらったのでは申しわけない。  
私はフレイに逆さまに覆いかぶさると  
シックスナインの姿勢を取り、  
彼女の口元に股間を押しつけた。



よく動く舌が秘裂をなぞり、尖った淫芽をもてあそぶ。  
私は少女の技巧に恍惚の声を漏らしながら怒張を  
頬張り、先端から滲み出る先走りの汁を味わった。

脈打つペニスのすぐ真下で、ピンク色の綺麗な女性器が愛液にまみれて  
息づいている。

ペニスをしゃぶりながら指を這わせ、膣口をなぞると、「女の子」の快感に  
あまり慣れていないのか、「あんっ」と可愛らしい声が漏れた。  
ここも気持ちよくしてあげたいが、このような状況ではどうしてもペニスの方を  
優先してしまう。フレイのお姫さまを可愛がるのはまたの機会にしよう。

# The Secret Night



性感が十分に高まったと見たフレイが、私に覆いかぶさってくる。  
私は自然に迎え入れる姿勢を取り、彼女を受け入れた。  
じゅぷりと淫猥な音をたてて性器が結合し、私はフレイとひとつに繋がった悦びに打ち震えた。

St...king diary

# The Second Ni



フレイが巧みに腰をつかい、私の弱い部分を責め立てる。  
最初はゆっくりと、徐々にはやく。時おり深々と埋め込んだまま腰をゆすり、  
膣奥に勃起の先端をこすりつけてくる。  
やがて彼女の吐息に甘いものが混じりはじめ、表情が切なくなってゆく。  
——フレイが私の中で果てようとしている。  
私は嬉しくなり、彼女が気持ちよく射精できるよう、腰の動きをあわせた。  
恋人のように手を握りあい、上気した肌を跳ねさせる。  
「ブランカ…いくっ！」  
フレイが短く呻き、膣内に白濁がぶちまけられた。  
私は膣を満たす精液の量と勢いに歓喜しながら激しく腰をゆすり、唇から  
悦びの声をはなした。



The Se

射精し、いづらか柔らかくなったペニスで膣の中をかき混ぜられる。  
グチュグチュと淫らな音を響かせ精液と愛液が混ざりあい、膣壁のあいだに塗りこまれてゆく。  
性器から全身に幸福感がひろがり、私はすすり泣きを漏らした。

Succubus breaking diary

# The Second Night



フレイの腰にまたがり、なかのものを締めながら尻を振りたくる。膣の襞の隅々まで精液を満たされ、快樂に蕩けきった肢体をくねらせる。この子が欲しい。もっと気持ちよくなってもらいたい。膣奥に大量の精を浴びせられ、身体の内側からこの娘のものであるという証しを刻みつけられたい。私は息をはずませながらフレイの名を呼び、中に射精してほしいと願った。少女の笑みが深くなり、膣内に深々とペニスが埋め込まれる。怒張の先端から勢いよく精液がほとぼしり、私の最奥を叩く。白濁の熱と勢いに私は歓喜し、潮を吹いて絶頂に達した。



その後、性器に二回、口腔に一回射精されて調教は終わった。  
調教されるようになってから、膣内に乾きを感じたことは無い。

——このように私は毎日調教されている。

一度は私優位にプレイを責めてみたいものだが、彼女に抱きしめられると途端にその気が失せ、一方的に責められてしまうのは、サキュバスとしていかなものか。

このままではいけないと思いつつも、膣内に射精されるたび全身が快楽に痺れ、「もうこれでいいや」と思ってしまふ。

このあと休憩して体力が回復したら「夜の調教」が待っている。

その調教ではメイドも加わり、より濃密な調教をほどこされるだろう。

お気に入りにはメイドと私が抱き合った姿勢で交互に挿入される調教だが、どんな調教になるかはプレイの気分しだいだ。

今夜はどのような愉悅を味あわせてもらえるのだろう……。

想像するだけで股間が熱くなり、子宮が疼きだす。

……どうやら調教の時間まで待てそうにない。プレイのことを想いながら、自慰にふけることにしよう。

サキユバス

調教日誌

③



# The Before Night



私はサキュバス。  
夜の空を翔け、人々の精気を糧に生きる夢魔。

ある夜、精気をもとめ都の空をさまよっていると、若く強い精気の気配を感じたので、誘われるように広い敷地をもつ建物へやってきた。



…ここは人間が「学校」と呼ぶ、教育のための施設のようだ。  
若い牡と牝のはなつ大量の青い精気に身体を火照らせながら、私はひととき強い精気の気配をたどり、その根源を探しもとめた。

# The Before Night



強い精気の持ち主はどうやら魔法的な障壁に守られているらしく、所在が微弱にしか感じられなかったが、痕跡を丹念に探ると、建物の奥まったところ、秘密の入り口に隠された一室に辿りついた。



…愛らしい金髪の少女から、思春期の少女特有の、自分の身体の変化への戸惑いや性への興味とともに、抑えきれない若い情動が伝わってくる。

いずれも私の大好物だが、彼女からは何故か若い牡の精気も感じとれる。  
牡の気配の感じられぬ可愛い女の子なのに…何故だろう？

# The Before Night

その理由は彼女を裸に剥いてみるとすぐに分かった。

発育途上の少女の股間には、華奢な肢体には不釣り合いな男性器が屹立していたのだ。

まあ…女の子なのにオチンチンがあるなんて…

まだ剥けてない…  
すごく敏感そう…  
可愛いわ…♥

私は、可憐さと淫靡さをあわせもつ少女との出会いに、心が浮き立つのを抑えられなかった。

# The Before Night

気分が高揚しすぎた  
せいか、彼女を起こして  
しまった

お姉さん…誰…?  
何をしに来たの？

私はサキユバス

あなたの精気を  
分けてもらいに  
来たの

サキユバス…?  
精気…？

怖がらないでいいわ…  
せんぶ私にまかせて…

一緒に気持ちよく  
なりましょ…♥

少女は私の言葉を正しく  
理解したらしく、私を見つめる  
瞳にまぎれも無い性への好奇心が  
満ちていた

私は眠りヒラノの魔法で少女を  
眠らせるようなことはせず、  
直接精気を頂くことにした

# The Before Night

少女に覆いかぶさり、  
身体を密着させながら  
唇を重ねる

小刻みに震える少女の  
口腔内に舌をいれ、  
熱い唾液を流し込む

濃厚で大胆なキスに少女は  
初め恥ずかしがついていたが、  
やがて私の舌の動きに応え、  
自分から舌を入れてきた

私は少女と舌を絡めながら  
自分の柔らかい部分をおしあて、  
彼女に「牝」を感じさせた

# The Before Night



さあ、剥き剥き  
しましうね

…ほおーら、  
こうすると大人チンコに  
なるでしょ？

いきなりになったら  
遠慮なく言ってね

聞きだしたところによると、少女にはまだ射精の経験が無いらしい。  
…おそらく、彼女の「はじめての精液」は、私が搾り出すことになるだろう。  
愛らしい美少女の精通の瞬間に立ち会えるとは、サキュバス冥利に尽きる  
というものだ。



ふふっ…  
気持ちいい…？

あら、何か出そう  
になってきた？

いいのよ…？  
アタシの口の中に  
プチまけて…  
♥

少女がおののきながら腰をふるわせ、未知の快感に声を漏らす。  
私は少女が気持ちよく絶頂を迎えられるよう、熱情をこめて奉仕した。

# The Before Night

舌をつかいながら勃起に  
指を絡め、小刻みにしこく

パンパンに膨らんだ龟头を  
口腔にふくみ、音をたてて  
舐めしやぶる

少女の吐息に切ないものが  
まじりはじめ、何かを我慢する  
ように細腰が跳ねる

少女の絶頂が近いことを  
察した私は頬をすぼめ、  
喉奥深く少女を吸引した



少女の腰がピクリと跳ね、口腔に大量の精がはなたれる。  
ほとぼしる白濁の量と勢いに私は欣喜、軽い絶頂<sup>アクメ</sup>を感じながらそれを飲んだ。

Succubus breaking diary

# The Before Night



ふふ…  
じゅわんじゅわん…♥

さあ…ホンバンは  
これからよ…♥

ええそうよ…  
あなたは今から私と  
セックスするの…♥

オマンコの中で  
膣内<sup>なかだし</sup>射精すると  
とても気持ちいいのよ??

恥ずかしい事ではないわ…  
みんなやってること  
なんだから…♥

私は少女に跨ると勃起したペニスを手に取り、発情した性器にあてがった。  
少女は恍惚とした表情で、私の行為を見つめていた——。

潤んだ性器はなめらかに  
少女の怒張を受け入れ、  
私たちはひとつに繋がった

交わっている部分から  
少女の興奮と快感が伝わり、  
私をいつも以上に昂ぶらせる

——だが、私の中が気持ちよすぎた  
のだろうか、繋がったまま腰を何度か  
揺すっただけで少女はあっけなく  
果ててしまう

勃起の先端から  
勢いよく熱がはじけ、  
おびただしい量の精液が  
腔内に満ちてゆく——

少女の精は二回目の射精であることを感じさせないほど濃厚で、活力に満ちていた。  
私は腔内に白濁がほとぼしる感覚を、愉悦とともに味わった——。

# The Before Night



私は膣内に白濁が満ちる快感をゆるりと愉しんでいたが、少女は落ち着かない様子で、何やら焦っているように見えた。性交のあとの余韻くらいじっくりと愉しめばいいのに——と思うが、人間世界ではそうはいかないのだろう。



人間と関わるようになってずいぶん経つが、ケッコンという習慣についてはよく理解できない。少女からケッコンの申し出をされて驚いたが、何故か悪い気はしなかった。——正直に言うと、気分が高揚した。

# The Before Night



クス…♥

私を自分だけの  
モノにしたいって  
こと…? ♥

欲張りな  
お嬢ちゃんね…♥

いいわよ…  
私を孕ませることが  
できたら…♥

あなたのおヨメさんに  
なっただけあげる♥

ケツコソでもなんでも  
してあげる♥

念のため言うと、夢魔と人類が交わるようになって数百年。おそらく何百万回も性交が繰り返されたであろうが、サキュバスが妊娠したという例はわずか五例しか無い。人間とサキュバスのあいだに子供が出来るのは、「奇跡」と言ってよいだろう。そんな奇跡がもし彼女とのあいだに生じるのであれば、私の残りの人生など彼女にくれてやってもよい。——この時の私は、そんなことを考えるほど浮かれていた。

# The Before Night



息をのむ少女の前に大きく尻をつきだし、ものほしげに揺する

ぬちやりと音をたて秘裂がゆがみ、内側からこぼれた生白い汁が太腿へつたい落ちる

少女は頬を紅潮させながら背後に立ち、誘うように揺れる尻を抱きかかえた

膣口に熱を感じた次の瞬間勃起したペニスにつらぬかれ、私の尻は少女のものになった

私は快美感に背すじを震わせながら少女のペニスを締め、淫らな牝の快感に酔いしれた

パンパンと小気味良い音をたて、尻と腰のぶつかる音がひびく。私は荒い息遣いを背に感じながら身体をくねらせ、膣奥に浴びせられる白濁の熱に歓喜の声をはなった。

# The Before Night

少女は性器を結合させたまま私を仰向けに寝かせ、上気した表情でおおいかぶさってきた

むさぼるように口づけをかわしながら身体中をまさぐり、白濁にまみれた股間に腰を打ちつける

その技巧は稚拙で単調だったが私を感じさせようという情熱にあふれ、おおいに私をよろこぼせた

やがて私は歓喜の声をはなちながら少女の律動に応じるようになり、射精された時には潮をふいて絶頂した

# The Before Night



その後、膣で7回、口で2回、胸で1回、手コキで1回射精させたが、同時に数えきれないくらい絶頂させられた(おそらく一晩での、一人相手の最高記録だろう)。東の空が明るくなり始めたので残念ながら退散したが、彼女の精力は尽きる気配がなく、まだまだ頑張れそうだった。

——今夜も少女の寝室におもむき、心ゆくまで逢瀬を愉しむつもりだ。幸い、彼女の部屋は様々な障壁で守られているため室内での音が外部に漏れる心配は無い。どんなに嬌声をはなっても大丈夫だろう。

——今夜はどんな行為をして愉しもう——少女は学習能力が高いようなので、私の身体を存分に愛撫させ、女を悦ばせるテクニックを仕込んでやろうか、それとも……

——夜が訪れるまで時間はたっぷりある。ゆっくり、考えよう……。——

# The Before Night



——次の夜、期待に秘所を潤ませながら少女の部屋を訪れたが、彼女の部屋はもぬけの空になっていた。

学校関係者に近づき、調べたところによると、どうやら私との接触を彼女の後見人に知られてしまい、よりいっそう厳重な保護下におかれることになったらしい。

私は手を尽くして少女を探し求めたが、行方は杳として知れなかった。

私は後ろ髪をひかれる思いをかかえたまま都をはなれ、以前の自墮落で享樂的な日々にもどったが、この夜のような高揚を与える獲物には巡りあえなかった。

満たされぬ思いの正体が何なのか分からぬまま私は夜をさまよひ、やがて数年が過ぎた——。

# The Before Night



# The Before Night

少女は  
「調教師」となって再び私の前に  
現れ、私を調教奴隷にした

私にはブランカという名が  
与えられ、夜ごと少女に調教  
される日々を送っている

いくぶん成長し、女性らしい  
身体つきになった少女は、  
卓越した技巧で私を愛撫し、犯す

淫蕩な身体は少女の巧みな性戯に素直に反応し、  
秘奥に射精されるたび、私は股間から潮をふいて  
絶頂した

# The Before Night



どうして忘れていたのだろう——あれほど深く繋がり、激しく燃えあがった、少女と過ごした夜のことを。

遠からず私は、完全に少女のものにされるだろう。どのような形で結末を迎えるのか不安が無いといえば嘘になるが、フレイが私をどのように扱うつもりなのか、少し興味がある。

そういえば、数日前から私の首にはめられている首輪の魔力が弱まっているように感じるが……。

そのことと、記憶がもどったことは何か関係があるのだろうか。

# サキユバス

# 調教日誌

④



# The Marriage Night

調教されるようになって  
数か月――

ある夜、気がつくとな何の前触れも  
なく魔力が戻っていた

# The Marriage Night

いや——思い返せば  
兆候はあった

数日前から首の拘束具から  
発している魔力が弱まっていたし、  
何より、囚われる前の記憶が戻った  
ことは大きな変化だったろう

Succubus breaking diary

# The Marriage Night

久しぶりのことだったので少し  
感覚がつかめなかったが  
飛行能力は完全に回復していたし、  
このふんだと霊体化や「魅了」も  
大丈夫だろう

今の私は、囚われの身になる以前の  
力を完全に——いや、それ以上の力に  
満ちあふれている感じがする



Succubus breaking diary

# The Marriage Night

そう、  
私は自由——

どこへ行くしようと、何をしようかと  
私を妨げられる者などいない——

ccubus breaking diary

# The Marriage Night

自由になつた私が向かつた先は  
これまで幾度となく招かれ、  
情欲と歓喜の夜を過ごした  
御主人さまの部屋だつた



フレイは私に来るのを  
予期していたのか、  
一糸まとわぬ姿で私を出迎え、  
少し緊張した面持ちで唇を開いた

# The Marriage Night

力を  
取り戻したのね…？

貴女の方なら  
ここから逃げ出すことも  
私に仕返すすることも  
簡単なのに——

おとなしくいつものように  
ここに来たのはなぜ——？



# The Marriage Night

あら、どうして逃げるの？  
何を仕返しするの？

貴女に調教されているとき、  
最高に気持ちよかった——  
私、貴女に感謝しているのよ。

だから今日は  
お礼をしに来たの

今夜は私が、  
御主人さまを調教してあげる  
♥



Succubus breaking diary

# The Marriage Night

フレイの背に手を回し、  
細い身体を抱き寄せる

彼女は抵抗することなく  
私の腕の中に抱かれ、  
その身をゆだねてきた



Succubus breaking diary

# The Marriage Night



ベッドの上で  
四肢を絡ませながら  
音をたてて唇を吸う

上下する若い胸に豊かな乳房を  
おしあて、先端の固く尖った  
乳首で彼女のそれを愛撫する

すらりと伸びた脚を両脚で  
はさみこみ、股間を膝で圧迫しながら  
すべすべした太ももに  
発情した性器をこすりつける

# The Marriage Night

快美感に若い肢体が跳ね、  
愛らしい唇から  
官能の音が漏れる

性感の高まりとともに  
表情は艶めかしく輝き、  
少女の美貌が牝色に染まる

女性らしい身体つきに成長した少女には  
不似合いな勃起の先端は透明な汁にまみれ、  
発情した女性器から、淫らな蜜があふれ出していた



Succu

ry

# The Marriage Night

今夜は、たつぷり  
メスイキ  
女の絶頂させてあげる♥

いつもならこのあたりで  
オチンチンの誘惑に負けてしまって  
フェラチオ↓シックスナイン↓セックス♥  
というコースになっちゃうんだけど

# The Marriage Night

ベッドの上に座り、膝上に  
フレイを跨らせて胸を責める

弾力に満ちたふくらみを  
揉みしだき、  
かたく勃起した乳首を唇にふくんで  
口中でもてあそぶ

両方の乳首が唾液まみれになるころには  
フレイは完全にのぼせてしまっており、  
勃起の先端を私の腹部にこすりつけるように  
腰を揺すっていた

Succubus breaking diary

# The Marriage Night

充分に温まったところで、次はいよいよ「お姫さま」だ  
おまんこ

腰をつかんで下半身を抱きあげ、いわゆる「まんぐり返し」の姿勢をとらせる

愛液に潤う場所に口づけ、舌を入れて反応をみながらさぐっている、入り口のごく浅いところに気持ちいい場所があるらしく、可愛い声をあげながらお尻の穴をキョツとすぼめるのが分かった

# The Marriage Night



フレイの吐息に切ない艶がまじりはじめ、  
絶頂が近いと判断した私は彼女を仰向けに寝かせ、  
股間に手をのぼして指を挿入した

濡れそぼる媚肉が歓喜し、  
わななきながら私の指を締めつける

私はフレイの反応をみながら  
リズムカルに指をピストンさせ、  
ペラのつけ根——その裏側を  
叩くように小突いた

フレイはのけぞりながら身体を震わせ、  
感極まった声をあげると、  
私の指をきつく締めながら  
激しく潮を吹いた

# The Marriage Night

絶頂したフレイは  
すっかり脱力してしまった様子で  
荒い息をついていた

愛液にまみれた股間を  
隠そうともせず、  
全身から匂いたつような  
女の色香をはなっている

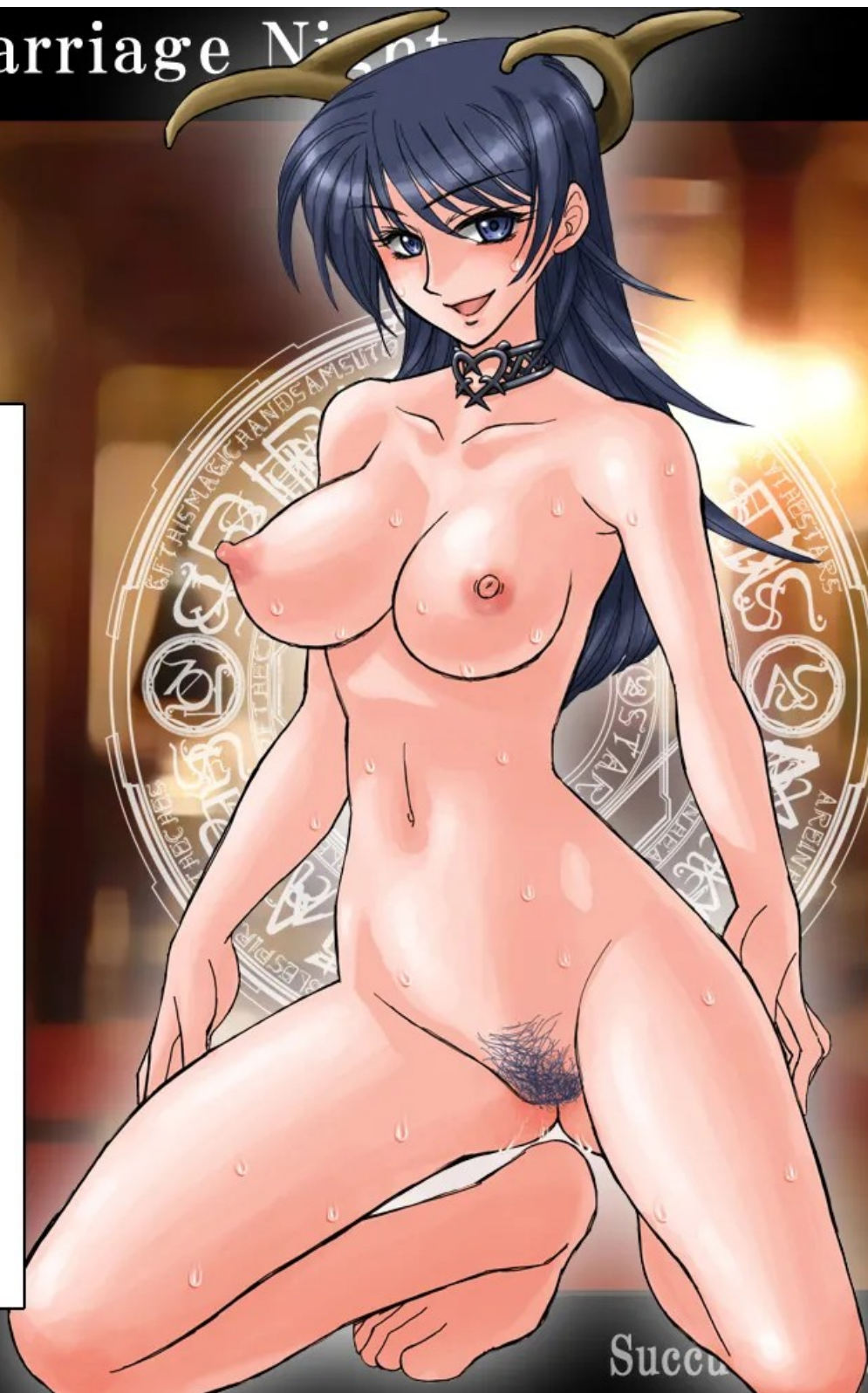
私を抱いている時のような  
余裕のある態度を微塵も感じさせない  
みだれた姿に、私は自分の中の獣性が  
力を増してくるのを感じていた

# The Marriage Night

この愛らしく従順で  
すばらしく淫らな牝を、  
自分のものになりたい

この娘の秘奥を  
私のものでふさぎ、  
その内側を満たしたい

私の唇から古の秘義を呼びおこす言葉が  
つむがれ、意識が一点に集中してゆく――



Success breaking diary

# The Marriage Night

軽い目眩を  
感じた次の瞬間、  
私の身体は、私の望む姿に――  
「ペニスのある身体」に、  
変化していた

これこそ、夢魔のもつ  
能力の中でも特に  
希少とされる能力――  
「具現」

サキユバスなら誰もがもっている「幻覚」とちがいで、  
身体の構造そのものを変えてしまう能力で、  
本来なら一部の上位夢魔しか使えないものだが  
フレイが大量の、それも上質な精をそそいでくれたおかげで  
私にも使えるようになったようだ



# The Marriage Night

つまりコレはフレイがくれた能力——  
フレイがくれたチ○ポ♥

なら、筆おろしの相手はフレイに  
してもらおうのが、もっとも相応しいと  
いえるわよね？



# The Marriage Night

私はフレイの前に腰を下ろすと  
誇らしげに勃起を見せつけた

フレイと事に及ぶまえに、私がいま  
どのような状態で、どれだけ彼女を欲して  
いるか、しっかりと見てもらいたかった

フレイは私のペニスの大きさと太さに少し  
驚いたようだったが、勃起をそっと  
手に取り、感触を確かめると、嬉しそうな  
表情で「キスしてもいい？」と訊いてきた

もちろん、私は拒否  
しなかった

# The Marriage Night

勃起の先端を舐めるように  
観察され、息を吹きかけられる

チロチロと動く舌で先端の小穴を  
くすぐられ、カリ裏を撫でられる

竿に添えた指でゆるやかにしごかれながら、  
音をたてて龟头を舐めしゃぶられる

熟練の娼婦を思わせる技巧に  
私は声を漏らし、またたく間に  
心地よい快美感の虜となった

# The Marriage Night

フレイの巧みな口戯に  
私はしだいに追いつめられて  
いった

腰全体に甘美な  
痺れがひろがり、  
未知の感覚に嬌声が漏れる

私の限界をみてとったフレイが、  
私を唾えたまままごころと頷く

「出しているよ」と言っている——  
と理解した瞬間、勃起の中心に  
快楽の激流がほとほしり、  
私はフレイの口腔へ欲望の汁をはなつた——

# The Marriage Night

フレイはペニスの中に残った精液まで、  
ぜんぶ吸いつくすとするには嚙下せず、  
口中にそれをためたまま舌をつきだし、  
大きく唇を開いた



濡れた舌に白濁液がこびりつき、  
唾液と精液の混ざった汁が  
フレイの小さな口の中に  
溜まっているのが見える…

そして静かに目を閉じ、  
ごくりと嚙下した——

# The Marriage Night

飲んでいる…  
フレイが、私のペニスから  
はなたれた白濁液を  
飲んでる——

私の欲望と快樂にまみれた汁が  
フレイの喉をとおり、  
体内に取りこまれてゆく——

精液を飲むくらい何でもないことのはずなのに、  
私は彼女の行為に言いようのない  
昂奮をおぼえ、この娘が私にはなにかとても尊い、  
神聖な存在であるように思えた



us breaking diary

# The Marriage Nig

我慢できなくなった私は  
フレイをヘッドに押し倒し、  
激しく彼女を犯した

性器が深々と結合し、  
愛液にぬめる無数の髪が  
ペニスにからみついて  
甘美な快感をもたらす

私は無我夢中で腰をつかい、  
初めて味わう媚肉の快楽に  
恍惚となった

この悦びをいつまでも味わっていたい——  
だが、私はすぐにこの交歓が  
長くは続かないことを悟った



succubus breaking diary

# The Marriage Night

腰の奥に生じた射精感が急速に  
広がり、たちまち腰全体を支配する

このままでは  
すぐに果ててしまう——

私は敗北を少しでも遅らせるため  
腰の動きを抑えようとしたが、  
射精の欲求は自分の意思でどうにか  
なるものではなかった

私はより強い快感を得るために  
フレイの奥に先端をこすりつけ、  
欲望の汁を解き放った——

# The Marriage Night

行為の途中で一方的に果ててしまったので  
フレイが呆れていないか心配だったが、  
彼女はそれなりに満足した様子で  
行為のあとの余韻を愉しんでいるようだった

フレイが、私との行為に  
悦びを感じてくれている——  
そのことがとても嬉しく、  
また、誇らしく感じられた

——私はこの少女を愛している  
そのことを改めて実感しながら、  
私は心の中が温かいものに  
満たされてゆくのを感じた

Succubus breaking diary

# The Marriage Night

心が温かいもので満たされるとともに  
勃起は活力を取り戻し、  
私は再びフレイのなかへはいつた

この娘をもっと  
気持ちよくしてやり  
たい——一緒にもつと  
気持ちよくなりたい——

私はフレイとつながった  
ままゆつくり腰を揺すり、  
彼女の気持ちいい部分——  
入り口の浅い所を刺激した

するとフレイは  
実に可愛い声で鳴きはじめ、  
私にしがみついていた



# The Marriage Night

しばらく腰を揺すっていると  
フレイの悦びが深くなり、  
突き入れたものの先端に丸いプリプリした  
かたまりが当たるのを感じるようになる

私の射精を至近で  
受け止めるため、  
子宮口がおりてきている  
いきなりになつてゐる

私はフレイの耳元に唇をよせ、  
「ほしいの？」と訊ねた

フレイは頬を紅潮させながら  
こくこくと頷き、私とより深く  
繋がるよう、脚を絡めてきた――



# The Marriage Night

あッ…  
フレイのなか…きつく—  
熱ッ…!

フレイの膣内がリズムカルに  
収縮し、下腹部に熱いしぶきが  
飛び散る

フレイ…いま  
いつてる…♥

わたしも…♥  
いつてあげる…♥

私は深い悦びを感じながら  
フレイの最奥に自分をこすりつけ、  
歓喜する子宮に欲望の汁を浴びせた

射精はなかなかおさまらず、  
フレイの膣から白濁が  
あふれるまで続いた



# The Marriage Night

フレイの中に出しつくし、  
私はようやく結合を解いた

うなだれた。ペニスが抜け、  
膈内から驚くほど大量の精液が  
ゴポリと音をたて、こぼれでる

性交のあとも生々しい女性器が  
白濁汁にまみれ、ものほしそうに  
息づいている——

その淫靡な光景にサキユバスの本能が  
刺激され、私はさらに欲情する



succubus breaking diary

# The Marriage Night

愛液と精液にまみれた。ペニスを  
フレイにしゃぶってもらいながら、  
白濁したたる秘唇に口づける

膣口から漏れる精液を舐めすすり、  
味わつてみると、それはフレイの愛液と  
混じりあい、極上の美酒のように  
私を酔わせた

——だがこれは、もともと私が  
フレイの中に射精した精液——  
それを私が横取りしてしまうのは、  
彼女に申し訳なく思う



# The Marriage Night

そういうわけで、  
フレイにも飲ませてあげる  
ことにした

精液と愛液と唾液の混ざった汁を  
口腔に溜めたままフレイに口づけ、  
口移しで飲ませる

彼女はそれを頬を紅潮させながら  
嬉しそうに味わい、残らず嚥下する  
——その愛らしくも淫らな仕草に  
私は彼女への欲望が高まるのを感じ、  
彼女をベッドに押し倒した

Succubus breaking diary

# The Marriage Night

フレイの中に射精し、一息ついていると、  
背後からいきなり抱きすくめられ、  
カタク勃起したものでつらぬかれた

牝の快楽に飢えていた身体はすぐに  
反応し、膣がこすられるのを待つて  
愛液が大量に湧出する

巧みなピストンで奥を突かれながら  
手コキされると、もう耐えられなかった

私は歓喜の声をはなちながら  
尻を振りたくり、  
愛される悦びにすすり泣きを漏らした

私たちはその後むさぼるように  
互いを犯しあい、互いの膣に白濁を  
そそぎこんだ



# Marriage Night

私は歓喜の声をはなちながら尻を振りたくり、愛される悦びにすすり泣きを漏らした

巧みなピストンで奥を突かれながら手コキされると、もう耐えられなかった

牝の快楽に飢えていた身体はすぐに反応し、膣がこすられるのを待つて愛液が大量に湧出する

フレイの中に射精し、一息ついていると、背後からいきなり抱きすくめられ、カタク勃起したものでつらぬかれた

# The Marriage Night

そのまま眠りに落ち、目覚めると目の前にフレイの笑顔があった

どうやら、ずっと寝顔を見られていたらしい

「フランカ——私と結婚してくれる？」

私を逃がさないよう馬乗りになつて抑え込み、お腹にカタイモノを当てながらフレイが問う

私は降参して、「どっちがお嫁さん？」と訊ねながら、彼女にキスをした



# The Marriage Night

こうして、私たちは互いを妻とし、互いの主人となる誓いをたて、<sup>パートナー</sup>伴侶となった。どちらかが妊娠したら正式に式を挙げるといふ段取りだが、さて、どちらが先に相手を孕ませることになるのだろう。先に孕んだ方がウェディングドレスを着る予定なので、フレイにはぜひ頑張ってもらって、私に花嫁衣装を着させてもらいたいものだ。



そうそう、例の首輪——私の能力を封じていた——は完全に魔力を失い、廃棄される予定だったのだが、いまも私の首を飾っている。

フレイが「もうその首輪を着けなくてもいいのだけど、気に入ったの？」と訊ねてきた。

——うまく答えられないが、この首輪はブランカという名前を貰ったのと同じ日に貴女に貰った大切なものなのだと、彼女は非常に得心した様子で、後日、同じデザインの首輪をつくり、身に着けてくれるようになった。

以来、私たちは、揃いの首輪を身に着けている。

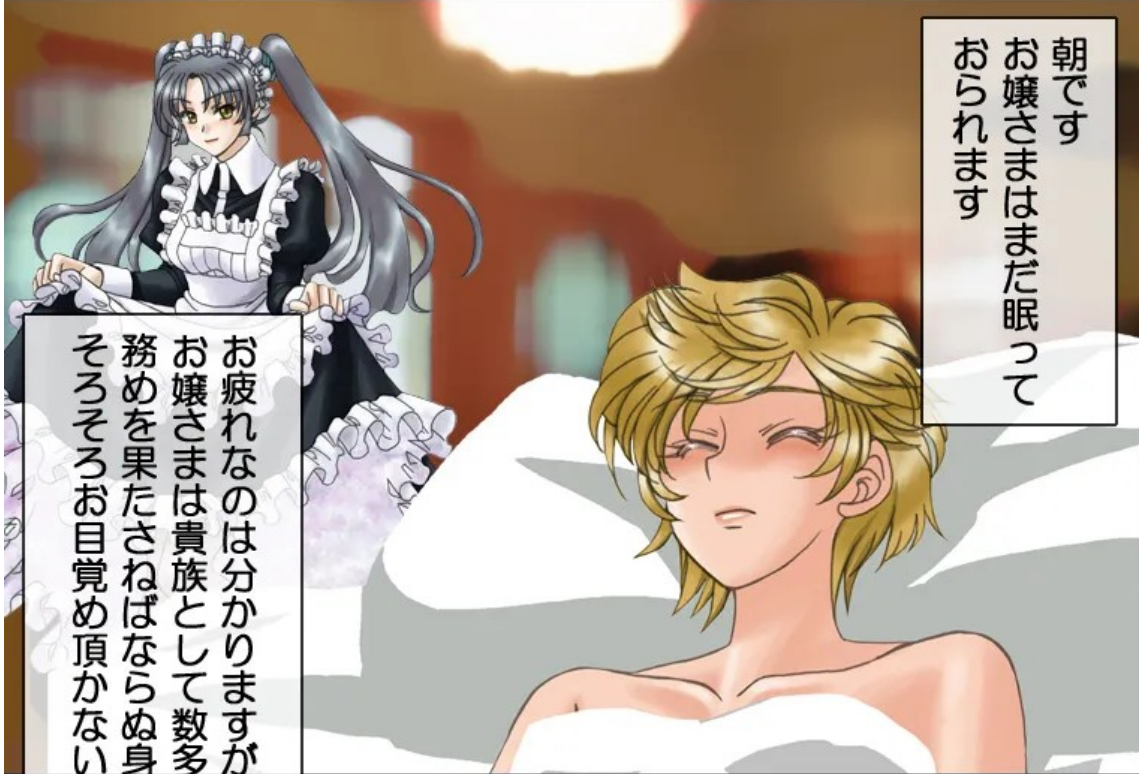
メイドビュキョん



とお嬢キョま

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary



朝です  
お嬢さまはまだ眠って  
おられます

お疲れなのは分かりますが、  
お嬢さまは貴族として数多くの  
務めを果たさねばならぬ身  
そろそろお目覚め頂かないと…



お嬢さま  
もう9時ですよ  
起きてくださいまし

…駄目です  
起きる気配がありません

…これは…  
少し大胆な起こし方を  
しないといけないようですね♥

Malika ×  
Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

えいっ♡  
邪魔なシーツは  
剥ぎとります

…ああ…♡  
なんと愛らしく淫らな  
お姿…♡

ゆうへはプランカさまを調教  
なさったあと私の膣内へ三回も  
白濁液をはなったというのに…  
見事なモーニング勃起です♡

…気持ちよくお眠りのお嬢さまを  
無理やり起こすのは気がひけます  
心地よくお目覚めいただくには  
どうすればいいのでしょうか？

Malika ×  
Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary



やはり最初はキスから  
始めるのが順序という  
ものでしょうか…

ああ…眠っておられる  
お嬢さまの唇を奪うなんて…  
背徳的な行為に興奮します♥



まだお目覚めに  
なられませんか…?  
ではおっぱいを…♥

ん…♥  
れろ…  
れろ…  
れろ…れろ…♥

あら…乳首…♥  
だんだん固くなって  
きました…♥  
それに心なしか息遣いも  
荒くなってきたような…?

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary



気配はするのですが  
まだお目覚めに  
なられません(棒)

かくなる上はマリーカも  
本気で御奉仕しないと  
いけないようですね♥



ふふ…♥  
先っぽが先走りの汁で  
ヌルヌルですわ…♥

毎晩可愛がっていただいているお礼に  
今日はマリーカがお嬢さまのオチンチンを  
可愛がってさしあげます♥

Malika ×  
Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary



ん…♥  
お嬢さまのオチンチン…  
美味しい…♥

こんなに立派なオチンチンに  
御奉仕できるマリーカは果報者に  
ございます…♥



こうやって…  
喉の奥までぶくんで…

ふう…ん…♥ んふ… ああ…♥  
鈴口からとめどなく先走りが漏れ出て  
きて…♥  
思わず顔がとろけてしまいます♥

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking

これだけのことを  
してもまだお目覚めに  
なりません♥

なら…マリーカの股間で  
勃起をこすってさしあげます♥  
濡れた柔肉と陰毛で朝勃起チ○ポを  
しごかれるのは気持ちいいですか？

ふふ…思ったとおり…♥  
オチンチンが嬉しそうに脈打つ  
のを感じます…♥

あッ♥ いまビクンッ♥と反応しました♥  
先走りの汁もいっぱい…  
とても気持ち良さそうなお顔…♥

M

Fruya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

ですがこの行為は  
私自身をも欲情させる  
諸刃の剣：  
いつしか、私は当初の  
目的を忘れお嬢さまの  
勃起に秘唇をこすり  
つける快感に夢中にな  
ってしまいました

この立派なペニスに貫かれ、  
激しくピストンされて絶頂に  
達したい…

しかし、メイドの分際で  
お嬢さまのペニスを勝手に膣内  
に挿入するなど僭越の極み

私は発情した性器をお嬢さまの  
勃起にこすりつけながら  
浅ましく腰を揺り動かし  
劣情に身悶えしていました



メイドさん × 魔物姫  
Succubus × Mag girl



その時です！

マリーカ！  
いいかげんに  
しなさいッ！

おっ  
♡

Malika ×  
Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary



お嬢さま…  
いつからお目覚め  
でしたの??

あなたがシーツを  
剥ぎ取った時からよ♥

意地悪なお嬢さま…  
ずっと私の痴態を観察して  
らしたのですね…♥



お、お嬢さま…  
そっくろ…

…なあじ?

この姿勢はつらすぎます…  
早く…お願いします…♥

あら、何のことが  
分からないわ  
どうしてほしいの??

あん♥ お嬢さまのいじわる…♥  
私に、恥ずかしいお願いをさせる  
おつもりなのです…?

Malika ×  
Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus × Malika × Freya

お嬢さま…♥  
どうかこの淫らなメイドに  
お仕置きを…♥

その立派なオチンチンで  
オマ○コを刺し貫き、激しく  
ピストンして濃厚な精液を  
そそいでください…♥

私はお嬢さまに向かって  
脚を開くとみずから秘裂を押し開き  
発情した性器を誇示しました

お嬢さまの視線が私の股間に  
釘付けになり、勃起したペニスが  
ピクンと脈打つのがわかります

Malika ×  
Freya

メイド様さま diary

脈打つペニスが膣壁をかき回し、私の唇から悦びの音が漏れ出ます

お嬢さまは私をベッドに組み敷くと膣口に勃起の先端をあてがい、濡れそぼる性器をつらぬきました



Malika × Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

お嬢さまが強く腰を打ちつけた瞬間  
私の中で激しい熱が弾け、私は歓喜の  
声をはなちながら絶頂に達しました

やがてお嬢さまの吐息に  
切ないものが混じりはじめ、  
甘い声が漏れ出ます

私たちは情欲のおもむくまま  
みだらに身体を揺り動かし、  
互いをもとめました

私はお嬢さまのすべてを  
受け止められるよう  
お嬢さまの腰に脚を絡め、  
深く迎え入れました

Malika ×  
Freya

# メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking

貫かれていた場所から白濁が  
漏れ、膣内がお嬢さまの精液で  
満たされていることを確認して  
いただきます

結合が解かれると私はお嬢さまに  
向かって脚を開き、愛液にまみれた  
股間を晒しました

…あら？  
お嬢さまのオチンチン…  
また大きく…♥

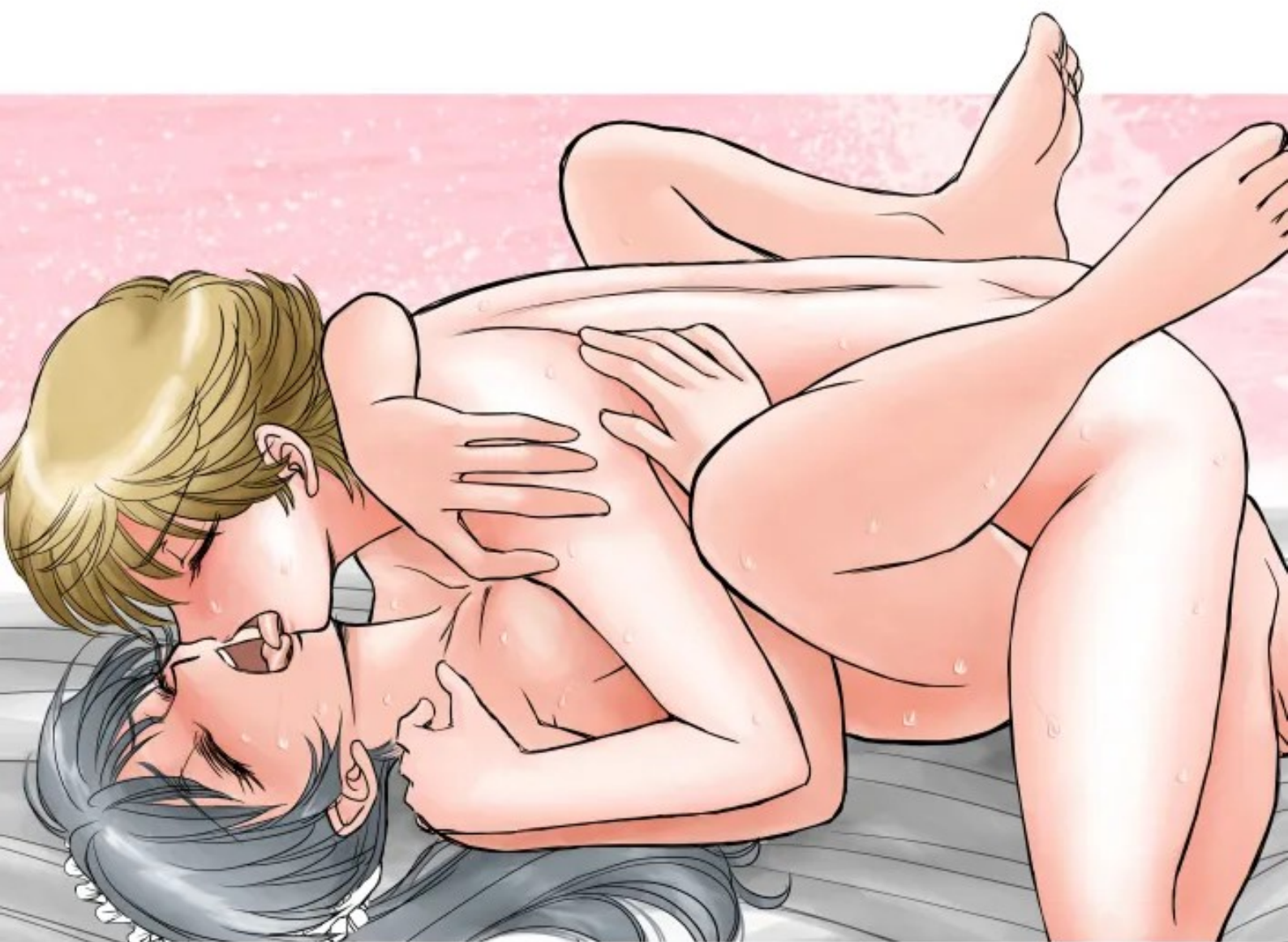
結局、私は午前の時間を目いっぱい使って奉仕に勤しみ、お嬢さまに  
三回も精をはなっていました。


お嬢さまはこの後、ブランカさまの調教を始める御予定です。  
どうやらお嬢さまは私をブランカさまの調教に参加させる心づもりの  
ようで、どのような調教になるのか、今から楽しみです。

奉仕が終了しました。

Malika ×  
Freya


# ふたなりお嬢さまの 射精メカニズム





私のお嬢さまは玉なしのふたなりです。  
女性器を隠す睾丸が無いおかげで可憐な  
お嬢さまが丸見えとなり、たいへん  
愛らしい御姿であらせられるのですが、  
反面「精子は作られるのか」「もしかして種無し？」  
という疑問が付いて回ります。

結論から申しますと、無論、お嬢さまの精液に  
精子はありますし、私を孕ませることもできる  
のですが、これまでそういったことは詳しく  
論じられてきませんでした。



そこで、  
今日は私、マリリーカが、お嬢さまの  
射精メカニズムについて  
詳しく解説いたします。

# 1. 玉なしふたなりの構造

## 龟头

陰茎海綿体の先端、最も神経が集中している敏感な部分です。カリ高で女性を悦ばせるのに適した形状です。

詳細な図説でお嬢さまの陰部を解説したい所ですが、モザイクだらけになってしまうので、医学書ふう断面図で説明します。

## 陰茎海綿体

細長い形状で、基部は二つに分かれています。基部は膣に沿う形で体内に埋没しており、陰茎全体を支えています。

子宮口

直腸

## 精巣

アーモンドくらいの大きさで男性のものに比べると小型ですが、精子製造能力はひけを取りません。射精管の左右に二つあります。

小陰唇

大陰唇

肛門

## 射精管

精液、および性粘液の通り道で、膀胱には繋がっていません。先端の射精口は特に敏感な部分です。

二つに分かれた陰茎基部に挟まれるかたちで尿道口と膣口が存在し、体奥に続いています。膣内は襞が密集して締まりがよく、たいへん具合がよろしいそうです。

## 精囊

性行為を潤滑におこなうための性粘液はここでつくられます。また、精巣でつくられた精子はここに集められ、性的興奮の頂点に達したときに性粘液とともに射精されます。

上図はフル勃起時のものですが、通常時は親指くらいの大きさとなりますので、じゅうぶん女性用下着の中に収まります。

お嬢さまは皮余りの包茎でいらっしゃいますので包皮内の衛生状態には特に気を付けており、御入浴のさいはマリーカが洗浄しています。



## 2. ふたなりの性感

男性と女性、双方の快感を得られるふたなり女性は、性行為においてどのような感じ方をするのでしょう。

お嬢さまが「男性」のように女性と性行為におよぶばあい、陰茎で性的刺激を受けても女性的な性感はあまり高まりません

性的興奮が頂点に達し、射精に及んだ時でも、女性的な性感の高まりは「なんだかムラムムする」程度に留まります。

つまり、お嬢さまの女性的欲求は満たされていない状態ですので、どうにかして鎮めてさしあげる必要があるのです



お嬢さまの性的欲求を満たして  
さしあげるには女性としての喜びを  
感じさせてあげるのが一番  
現在はブランカさまにお任せしている  
のですが、時にはマリーカが「竿役」を  
務めさせていただくこともあります

ペニスバンドを装着して  
犯してさしあげますと  
お嬢さまはすっかり蕩けきった  
牝の表情になられ、マリーカの  
奉仕に歓喜の声をあげられます

ふたなり女性は  
膣への抽挿により  
陰茎基部の敏感な部分が  
刺激され、非常に強い快感を  
得ることが出来ます

うまく誘導してあげれば  
膣とペニスの両方で  
同時に絶頂に達することも  
可能です

射精しながらの絶頂——  
それは普通の女性では決して味わうこと  
できない、素晴らしい快感であると  
いわれています



### 3. ふたなりの妊娠

私は、普通ならずで三人くらい赤ちゃんを産んでいてもおかしくないくらいお嬢さまにナマ中出しされているのですが、未だ妊娠の経験がありません。これには理由があるのです。

お嬢さまは調教師の修行を始めるさい、陛下より「絶対避妊の恩寵」を賜りました。

皇帝秘伝の恩寵の効果は非常に強力で、恩寵の保持者は、自身が望まないかぎり、絶対に妊娠しない・させないのです。

技術の習得のために性交セックスを重ねる調教師の修行にあたり、この恩寵が大きな力になったことはいうまでもありません。

イメージとしては、ペニスの根元と子宮口に強力な魔法陣を敷き、精子の受精能力を封印している…という感じですよ。

お嬢さまは私を気遣って受精能力を封印して下さいてくれるのですが…私としては、お嬢さまの子種ならよろこんで受け入れる所存です♡



それではおまけに、お嬢さまとブランカさまが毎日おこなっている子作りセックスを皆さまに御覧になっていただきますよう。

お嬢さまはブランカさまと愛しあうさい、時間をかけて入念に前戯をほどこします

もう30分ぐらい続けているでしょうか——

お嬢さまの心のこもった丁寧な愛撫に、ブランカさまはすっかり出来あがっています

指と舌技だけで2、3回いかせてから、性器を結合させてお待ちかねのホンバンです

女の鳴きどころを心得た巧みな抽挿にブランカさまは歓喜の声をあげてよろこび、体奥にあびせられる白濁の熱にすすり泣きを漏らします

お嬢さまが種つけされる番に  
なるとマリーカもベッドに招かれ、  
お二人の介添えを  
務めさせていただきます

ブランカさまに性器をつらぬかれ、  
牝のよろこびに震えながら  
いきり勃ったペニスをもてあます  
お嬢さまの姿はなんとも愛らしく…♡

大きく脚を開き、  
濡れそぼる股間を晒してみせると、  
お嬢さまは切ない表情でマリーカに  
覆いかぶさり、脈打つものを  
押し入れてきます

ブランカさまの情熱的な律動に声をあげながら  
マリーカの中のペニスを震わせ、激しく腰をつかう  
お嬢さまはこの上なく美しく淫らで…

ブランカさまに膣内射精されると  
歓喜の表情でマリーカにしがみついき、  
熱くたぎる白濁をほとぼしらせるのです—



数時間におよぶ子作りセックスに  
励んだあとはさすがのお嬢さまも少々お疲れ：  
なすすべなく私たちのおもちゃにされて  
種付けオマ○コを隅々まで観察されます♡

ふふ…っ♡  
ブランカさまにたくさん  
中出ししてもらえて  
良かったですね…♡

どちらが先にお孕みに  
なられるのか、  
マリーカはとても楽しみです♡





Girls Stallion

# Girls Stallion

そして彼女は、  
私の御主人さまのフレイヤ

私はサキユバスの  
ブランカ

色々あつて結ばれた私たちは、  
愛に満ちた日々を過ごしている——

# Girls Stallion

私たちは毎夜、  
生まれたままの姿で  
愛しあう

弱い部分を熟知した巧みな愛撫に  
私は感嘆の声を漏らし、  
彼女の指の動きを受け入れている



興奮が高まるにつれ  
乳房が熱く重く張りつめ、  
先端から母乳に似た乳白色の  
液体がにじみ出る

媚薬・強壮効果のあるそれを  
フレイが美味しそうに飲み、  
股間をガチガチに勃起させる—  
その姿を、私は陶然と眺めていた



互いの性器に口をつけ、  
シックスナインの姿勢で  
奉仕する

私はフレイの口元に股間を  
おしつけながら彼女のペニスを頬張り、  
念入りな口腔性交にふけた



——準備が整ったので  
体位を変え、迎え入れる  
姿勢をとる

フレイが私の脚のあいだに腰を入れると  
舐めあった性器は滑らかに結合し、  
私たちの唇から深い満足の声が漏れる——



巧みな腰づかいが私を征服し、またたくまに官能が高まってくる

絶頂が近い事を感じた私は夢中で彼女の腰に脚を絡め、膣内への射精を懇願した――

フレイが私の股間に強く腰をおしつけた瞬間、膣奥に熱のかたまりが浴びせられた――射精している

私は絶頂しながら膣内への射精に歓喜し、激しく潮をふいた――



# Girls Stalki

膣内に射精され、  
心地よい疲労を感じながら  
絶頂の余韻を愉しむ

このまま休みたい誘惑に  
駆られるが、お愉しみの時間は  
まだ始まったばかりだ

この愛らしく利発で  
欲望に忠実な少女――

私の可愛い御主人さまに、  
オシナ  
牝としての悦びを味わってもらおう番だ――♡

# Girls Stallion

私は股間にペニスを顕現させると、誇らしげにフレイに見せつけた

股間に熱があつまるとともに、暴力的な衝動が高まるのを感じる

この獣欲を、はやく解きはなちたい……  
勃起にたまった熱い欲望を、愛する娘の体奥にぶちまけたい……

嬉々として勃起したペニスをつきだす

彼女は微笑を浮かべながら勃起を手にとると、愛しそうに頬ずりしてきた

# Girls Stallion

フレイが亀頭にキスして、  
鈴口に滲む先走りを  
優しく吸い出す



舌先で敏感な部分を  
くすぐられると、もうこの時点で  
射精感がこみあげてくる

唾液をたっぷりまぶして、  
亀頭全体をしゃぶられる



私の反応をさぐりながら  
舌をつかい、確実に快感を  
高めてくる

あぁっ…♡  
ま、丸のみ…っ♡



男根全体を啜えられる快感に  
私は声を漏らし、彼女に  
射精が近いことを伝えた

# Girls Stallion

フレイがうながすように  
深く啜え、強く吸引した瞬間、  
私は達した

少女の口腔に、私の  
欲望と劣情にまみれた白濁が  
はなたれる——



——飲ませるより、  
彼女をけがしたかった

私はフレイの口から男根を引き抜くと  
射精の続くペニスを美貌になすりつけ、  
生温かい汁を顔中に塗りたくった



精液まみれのフレイの姿に  
私はますます昂ぶり、彼女を  
ベッドに押し倒した

私が浴びせた精液を舐め清めながら  
上気した肌をまさぐり、彼女が  
私を受け入れられるように愛撫する



唇をキスでむさぼると、  
精液の味がした



フレイの唇から甘い声が漏れはじめ、  
艶めかしい牝の表情になる



彼女の身体のあらゆる部分——  
愛らしい唇、乳房、へそ、尻、性器、  
肛門まで舐めまわし、私の匂いをつける

# Girls Stallion

——ホンバンの前に、  
一発ヌイておいてあげよう

私は彼女のペニスを手で  
しごきながら性器を指で  
つらぬき、内側をかき混ぜた

フレイの好きな部分を集中的に責めると  
彼女は弓のようにのけぞり、  
私の指を締めながら潮を吹いて射精した

——呼吸をととのえながら  
様子をうかがう——

——一度イッたおかげで少し落ち着いているが、  
その表情は成熟し、発情した牝の色香を漂わせ、  
これからはじまる行為への期待に輝いていた——

私をみつめる期待の眼差しの前に、理性はけしとんだ

フレイを組み敷き、性器を結合させる

トロトロに発情した褻がペニスに吸いつき、甘美な締めつけが私を包む

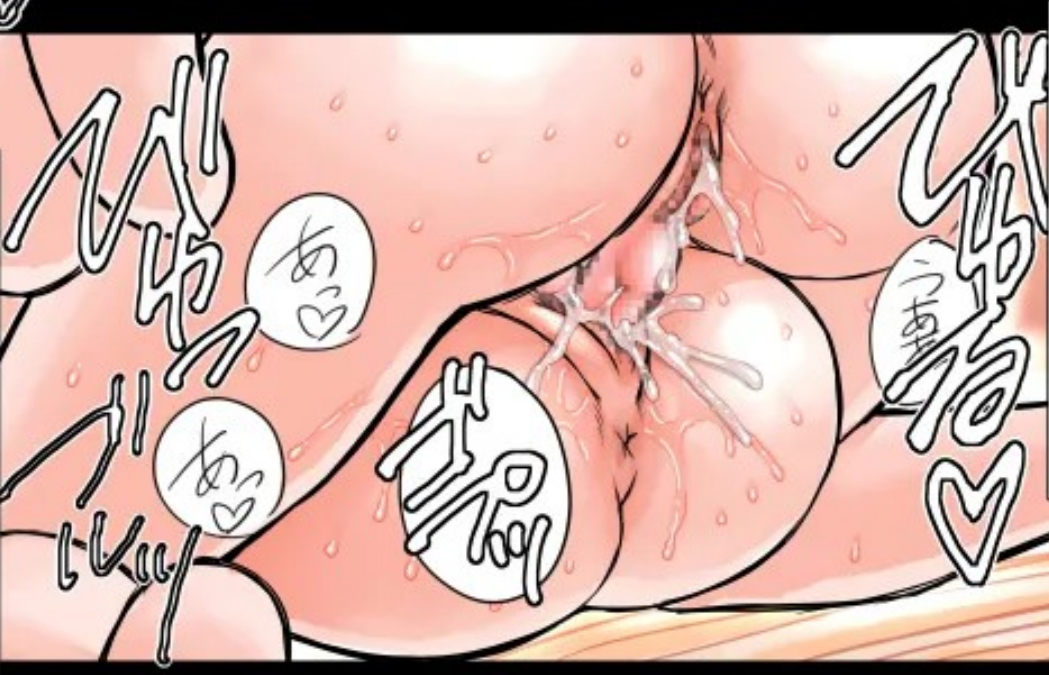
気持ちいい…この気持ちいい穴の中で射精したい…

私はペニスの快楽の虜となり、取りつかれたように腰を振りたくった



あつというまに興奮は頂点を極め、射精する

おびただしい量の精液が勢いよく腔内に撒き散らされ、腔壁の奥まで白濁で満たした



# Stallion

だが、一度射精したくらいで私の欲望はおさまらない

私はフレイを抱きしめながら激しく腰を打ちつけ、ペニスのストロークを利用して膣内を満たす精液をかきまぜた

幾度となく膣奥に浴びせられる白濁の熱にフレイは歓喜し

メスイキ 牝の絶頂を繰り返しながら何度も射精した

# Girls Stallion

私たちは飽きることなく  
互いにもとめあい、犯しあった

膣壁の奥まで精液で満たし、  
あふれた精液がベッドに  
淫らな染みをひろげても、  
私たちの欲望が尽きることは  
なかった



私たちは互いにすべてを  
与えるとともに  
すべてをむさぼり――

口も、性器も、乳房も、  
尻の穴にいたるまで犯しつくし、  
白濁をそそぎこんだ



私たちは互いにペニスをつかみ、  
迎え入れる姿勢を取ると、  
相手の膣に挿入した

犯し犯される快感に  
すすり泣きを漏らし、  
腰を揺すつて昇りつめる

フレイが絶頂し、  
膣にドクドクと  
精液がしみ込んできた

同時に私も絶頂し、  
彼女の中に射精する



私の中の彼女がビクンと震え、  
さらに精液を吐き出す

絶頂と射精は長く  
緩慢につづき、私たちの膣は  
互いのはなった白濁であふれた

抱いているのか抱かれているのか  
それすらも分からなくなるほど  
互いを犯しつくしたのち、  
私たちはようやく結合を解いた

# Girls Stallion

私たちは抱きあったまま  
眠りににつき、目覚めた時には  
昼過ぎだった

身体に張りついた精液が  
すっかり乾き、ポロポロと  
はがれおちてゆく



私たちはしばらく談笑していたが、  
ふと見ると、彼女の股間のモノが  
天を衝くように勃起しているのに気づいた

…いくらなんでも元気すぎると  
思うのだが——実を言うと、私も  
少しそういう気分になっていた

——私は彼女にむかって  
ほほ笑みかけると、膝に置いた手を  
そろそろと動かしはじめた——